

高圧開閉器 更新のおすすめ

劣化故障が起きる前に 早めの更新を！

高圧開閉器の経年劣化は使用環境により大きく影響されます。
定期的な保守点検と、故障が起きる前に早めの更新をおすすめします。

更新推奨時期（使用開始後）

高圧交流負荷開閉器

屋内用 15年 または負荷電流開閉器 200回

屋外用 10年 または負荷電流開閉器 200回

GR付き開閉器の制御装置 10年

※(社)日本電機工業会資料より引用

責任分岐点の
高圧気中開閉器は

佐助くん



同製品はいったん装着される。10年近く需要家の受電点を見守り、波及事故を未然に防ぐ役割を担う。メーカーは電気主任技術者への技術的アドバイス等のサービスを充実させるべきだろう。SOG開閉器は昭和48年6月の通産省（現在・経済産業省）「高圧受電設備の施設指導要領」の通達によりオイルレス開閉器として市場に普及し始め既に34年が経過しており、一部には古い製品が未だに設置されているようだ。事故防止のための開閉器が、逆に事故の原因となった例も報告される。メーカーや電気主任技術者、設備の保守担当者には古い設備のリニューアルを積極的に推奨している。

(社)日本電機工業会は「汎

用高圧機器更新時期に関する研究報告」で開閉器は屋外用・10年、屋内用・15年、SOG制御装置は10年を更新推奨時期としている。この更新時期は、機能や性能に対する製造者の保証値ではなく、通常の環境のもとで通常の保守点検を行って使用した場合に、機器構成材の老朽化などにより、新品と交換した方が経済性を含めて一般的に有利と考えられる時期をいうが、よくSOG制御装置には電子部品が多数使用さ

事故防止のため 早めの機器更新

れているため、使用されている環境条件（周囲温度、湿度、雰囲気等）に大きな影響を受けるので、早めの取り替えが望まれる。機器の長期使用老朽化による事故は適切な更新を行えば、防止可能なのである。

※平成22年8月5日発行 電材流通新聞「SOG付高圧負荷開閉器特集」より抜粋

屋外柱上設置の高圧開閉器は10年経過する頃が更新の目安となります。